

# 生命倫理学

英 文 名 : Bioethics

科 目 概 要 : 3 群科目、選択、講義、2 単位 (30 時間)

開 講 期 : 3 年後期 [金曜 3 時限 (集中)]

科 目 責 任 者 : 齋藤 有紀子

担 当 者 : 齋藤 有紀子

講 義 室 : 113 講義室

科目の位置づけ :

教育目標	生命に向き合い、多様な価値観の人間・社会で働く専門職になるために、自らの言葉で考え、継続的に生命観・倫理観・死生観を育んでいく力を身につける。 動物・人間・環境をめぐる困難な倫理問題について、問題を抽出し、さまざまな立場の人とコミュニケーションしながら、提示された課題に積極的に取り組む姿勢を身につける。
------	---

## 授業内容 (シラバス)

回	項 目	内 容	担当者
1	生命倫理・医療倫理の歴史	動物・人間・自然と向き合う学問と、生命倫理、患者の人権など基本的事項の概説	齋藤
2	研究倫理・技術者倫理の基本	FFP (捏造・改竄・剽窃)、利益相反、偽装の問題、個人情報保護について概説	〃
3	映像資料鑑賞	医療倫理について考察する映像資料の鑑賞	〃
4	自分と他人の心に向き合う演習	コミュニケーションと問題解決 (ロールプレイによる演習)	〃
5	生と性に関する人権	生命の始まりをめぐる倫理、性に関わる人権	〃
6	映像資料鑑賞	配偶子・胚・胎児と、人間の性をめぐる映像資料鑑賞	〃
7	医療における人権	‘治す’ ことの意味、健康という概念、優生思想	〃
8	人権意識を深める演習	人間の尊厳と、患者の人権、生命の尊重について考える (グループワーク)	〃
9	動物と人間の関わり	動物と人間のさまざまな関係について考察する	〃
10	映像資料鑑賞	動物と人間の関わりに関する映像資料鑑賞	〃
11	死生学演習	獣医学部生の死生学 (SGD ; スモールグループディスカッション)	〃
12	遺伝子診断の倫理	遺伝子診断・遺伝カウンセリング・出生前検査をめぐる倫理	〃
13	映像資料鑑賞	遺伝子診断に関する資料映像鑑賞	〃
14	臓器移植をめぐる倫理	脳死移植・生体移植をめぐる社会的心理的倫理的課題の概説	〃
15	再生医療・ES細胞・iPS細胞研究	再生医療をめぐる倫理問題	〃

到達目標	生命に向き合う専門職に必要な‘倫理的思考’を身につける。 社会の中のさまざまな意見に出会ったとき、自分の中で問題を整理し、考えることができる。 相手の立場を理解し、相手の立場に立って物事を考えることの意義と、その難しさについて、説明することができる。
評価方法	毎回の小レポート、出席状況、積極的参加態度、および、試験期間に実施する論述試験
準備学習 (予習・復習等)	特に予習は必要としないが、授業開始前に各自の生命に対する倫理観について考えてみる。授業後は、授業中の相互学習等で得た様々な考え方を基に、レポートや報告会の発表等で理解を深めるように努力すること。
その他注意等	倫理的な問題を考えることは、とても興味深いことです。それは、他者や自分について考え、社会・環境・自然、生命の営みに思いを馳せる時間になるからです。結論を急がず、むしろ、当然視していたことを一度リセットし、自分の中の‘揺れる’気持ちと向き合ってみる。そのことの楽しさと、難しさに、講義への参加を通して気づいてもらえればと思います。

教科書	未定
参考書	未定